

# Relief

リリーフ

2012  
October

vol.9



救急フェアの様子 (紹介記事 P2)

## CONTENTS

救急フェア	身につけよう救命処置!!
東日本大震災支援活動報告会	私たちだからこそできる東日本大震災への支援
安全セミナー	「ヒューマンファクター」から考える安全
助成事業	助成先の活動紹介
TOPICS	活動助成先の活動予定 主催セミナー等のお知らせ 編集後記



公益財団法人

JR-West Relief Foundation

JR西日本あんしん社会財団

# 身につけよう救命処置!!



Profile

まるかわ せいしろう  
丸川 征四郎

JR西日本あんしん社会財団理事  
医療法人医誠会医誠会病院 病院長。神戸大学医学部卒。1995年に兵庫医科大学救急・災害医学教授、救命救急センター部長に就任。日本を代表する救急・災害医学の研究者。阪神淡路大震災やJR福知山線列車事故時は現場で指揮を執り救命活動に当たる。

## 「市民参加型の救急蘇生と災害医療」

2010年に心臓マッサージや人工呼吸など心肺蘇生を含む救急蘇生法のガイドラインが改訂されました。この改訂は救急蘇生法の世界基準の改訂に伴うもので、米国でも欧州でも我が国と同時に改訂されました。救急蘇生ガイドラインを定め普及する目的は、不運にも災害や交通事故で亡くなる命の中にも含まれる「防ぎ得た死 (preventable death)」を一つでも多く救うことです。

救急蘇生に対する応急手当や処置には相反する2つの原則があります。それは傷病者に対して「何か良いことをすべきである」と、「害になることはすべきでない」ですが、現実には何が良いことで何が良くないことかの判断は非常に難しく、医師であっても誤ることは少なくありません。そこでガイドラインには、その時代の医学的な研究成果に基づいて手当や処置の有効性を4段階に分けて示しており、医師、医療従事者、そして市民が行うべきことが示されています(注\*)。

「防ぎ得た死」あるいは「救えたはずの命」を一つでも多く救うため市民に期待することは、人が倒れたり倒れている人に遭遇した時には、①勇気をもって関わること、②すべきことを一つでも実施すること、③日頃からすべきことを習得しておくこと、です。勇気を持って関わるとは、遠巻きに見物したり、目を背けたり、その場から立ち去ったりせず、

近づき、声を掛け、必要なら助けを呼び、119番通報するなど、講習を受けなくてもできる援助をすることを意味します。すべきこととは、心臓マッサージ(胸骨圧迫)や、AED(エーイーディー)を用いること、そしてできれば口対口人工呼吸を行うことです。急変現場に遭遇した時、人は事態を理解できずパニックになり何もできないのが普通です。すべきことを行うには、普段から心肺蘇生の講習を受けて、現場で行うべき手技と手順を習得して心構えをしておくことが重要です。救急隊が到着するまでは市民が救急蘇生の主役です。私達は、災害医療に於いても「市民参加型の災害医療」が大切なことを、JR福知山線列車事故現場の医療活動から学びました。

救急蘇生の講習は、日本赤十字社や消防機関が定期的に行っているのでも問い合わせれば容易に受講できます。JR西日本あんしん社会財団が行っている「救急フェア」では救急蘇生の基礎を学ぶことができます。時間のある人は是非とも訪ねてください。傷病者の命を自分の命と同じに慈しみ、「何か良いこと」ができるようになりたいものです。

(注\*) 専門医師には「JRC 救急蘇生ガイドライン 2010」、専門でない医師、看護師、救急救命士などには「救急蘇生法の指針 2010 (医療従事者用)」、市民には「救急蘇生法の指針 2010 (市民用)」が出版されています。



## 奈良県初の救急フェアを開催して



中井 喜久一郎  
奈良市消防局情報救急室長

国際文化観光都市奈良市の表玄関 JR奈良駅東口広場で四者共催のもと盛大に救急フェアを開催出来ましたことに対しお礼申し上げます。乗降客や観光客の往来する駅前という好立地のなか、子どもから大人まで多くの方に応急手当の大切さを理解し、体験頂けた

のは、参加者の皆さんが一丸となって熱心に取組んで頂いた成果であります。

奈良市消防局では、今後もこの様な広報活動を通じ、関係機関の協力を得ながら救命率向上へとつながって参ります。当日は、沢山の方々に喜んで頂いた一日でした。



# 私たちだからこそできる 東日本大震災への支援

これまで当財団では、東日本大震災に関する32件の活動に助成を行っています。

「防災の日」にあたる平成24年9月1日(土)に、東日本大震災の支援活動団体からの報告や大阪大学大学院 渥美公秀教授の講演を通して、「私たちだからこそできる東日本大震災への支援」について考える活動報告会を開催しました。



## Profile

あつみ ともひで  
渥美 公秀

JR 西日本あんしん社会財団  
事業審査評価委員会委員

大阪大学大学院人間科学研究科教授、(特)日本災害救援ボランティアネットワーク理事長。減災人間科学、ボランティアの集団力学、社会心理学を専門とし、ボランティアを含む災害救護システム研究や災害ボランティアの社会的基盤に関する国際比較研究、東日本大震災の被災地にけるコミュニティとボランティアとの関係についての現場研究等を行っている。



## 「災害ボランティア～東日本大震災を経験して」

私は阪神・淡路大震災に遭い、西宮市の避難所でボランティアに携わって以来、災害ボランティアに着目した実践研究を行っています。「ただ被災者のそばにいる」「声なき声に耳を傾ける」「注目が集まらない地域にも被災者がいる」といった点を特に大切にしています。

東日本大震災の被災地に入り、岩手県の野田村が大変だと聞きました。そして、何もかもなくなっている野田村を目の当たりにし、呆然と立ち尽くしました。私たちボランティアは、初期は泥かきや被災者の戸別訪問、昨夏にボランティア現地事務所を設置してからは、仮設住宅への引越しや足湯の提供、催しの企画など、被災者に寄り添う様々な活動を行っています。阪神・淡路大震災以降の教訓を活かす形で災害ボランティアのマニュアルが整備されました。しかし、皮肉なことに、ボランティアはまず現地の災害ボランティアセンターに行き、役割を与えられるという型どおりの動きが期待され、「現在の状況では、ボランティアは被災地に行くべきではない」などといった論調がボランティアに二の足を踏ませ、結果的に被災者が置き去りにされることも起こりました。

中越地震で被災した小千谷市が住民に、福島県か

らの避難者を自宅で一時的に受け入れるよう呼びかけたところ、受け入れ希望が200軒以上に上りました。小千谷の住民が「自分もやっとボランティアができた」と語っていたのがとても印象的で、「被災地のリレー」を実感しました。

たまたま西宮と小千谷がつながり、東日本大震災ではその小千谷と福島がつながりました。また、今年8月の宇治豪雨で被災した地域に3年前水害に見舞われた兵庫県佐用町からの支援物資車の姿がありました。これからの災害ボランティアでは、ボランティアはこうあるべきだと議論する前に「まず動く」こと、そして「被災地のリレー」が重要だと考えます。

被災という経験が「共感してもらえない」ことを共感できる人々を生み、関係をつくります。被災地同士がつながれば、日本中がつながることができます。ここに災害ボランティアの将来を見ています。



## 12団体から活動報告を行っていただきました(発表順)

※(特非): 特定非営利活動法人、(福): 社会福祉法人の略



Union International  
Association for Volunteer



大阪医科大学  
神経精神医学教室同門会



(特非) 湖西生涯学習  
まちづくり研究会どろんこ



(特非) シーズ加古川



(特非) おおぞら



緑の下のもぐら



(福) 視覚障害者文化振興協会



関西学院大学  
災害復興制度研究所



(特非) 多文化共生  
マネージャー全国協議会



東日本大震災・  
暮らしサポート隊



(特非) たんご村



(特非) 神戸定住  
外国人支援センター

# 「ヒューマンファクター」から考える安全



8月27日、公益事業者の安全担当者の方々などを対象とした安全セミナーを開催しました。

今回は、「『ヒューマンファクター』から考える安全」とのテーマで開催し、昨今、安全対策の分野において人的要因からのアプローチである「ヒューマンファクター」が高い関心を集めていることを反映して、当日は約650名の方が聴講されました。

佐々木理事長の挨拶の後、早稲田大学理工学術院教授の小松原明哲さんと立命館大学スポーツ健康科学部准教授の山浦一保さんから、それぞれ講演いただきました。



## Profile

こまつばら あきのり  
小松原 明哲

早稲田大学理工学術院創造理工学部経営システム工学科人間生活工学研究室教授。専門は人間生活工学。ヒューマンファクターにかかわるリスクマネジメント、製品やサービスの人間中心設計についての研究を行う。

## 「人が守る安全を考える — 安全マネジメントの視点から」

社会は、鉄道などの社会技術システムにより支えられています。そのシステムの安定を損なう要因、つまり変動をもたらす要素としては、地震などの自然要因、テロなどの社会要因、設備機器の調子などの技術要因、人的要因が考えられます。人的要因とは、いわゆるヒューマンエラーのことで、ヒューマンエラー対策が必要です。人間には能力の限界や特性があるので、それに反した作業設備や作業環境を与えては、エラーは容易に起きてしまうからです。人間の能力や特性に合わせた作業条件、作業環境、道具を提供しなくてはなりません。ハードに限らず、マニュアルや作業規則、規程類も同じです。現場の実情に即し、かつワークロードが低いマニュアル、手順、規則を与えなければ、現場では規程違反や手抜きが起ってしまいます。

ところで、こうしたヒューマンエラー対策はもちろん非常に重要なことですが、しかしながら社会技術システムの中には、それだけでは安全、安定を確保できないものも多く存在しています。天候は制御不能ですし、機械の調子や、また誰かのヒューマンエラーなどは、いくら対策を講じていてもやはり起こるもので、それによりシステムの安定は脅かされます。それに対しては、人間がうまく立ち回ることによって影響を吸収し、システムの安定を維持することが必要で、そのためには、いわゆる「現場力」を向上することが必要になります。これが「レジリエンス」という考え方であり、ヒューマンファクターズの1つの新しいアプローチとなってきています。

レジリエンスとは、①どのような変動が起こり得るのかを予見する、②それが生じていないかを監視、モニタリングする、③現に起こったら速やかに対応する、④対応ぶりを振り返る、ということを経り返すことで、システムの安定を保ちましょう、ということ。決して場当たり対応、泥縄対応のことを言っているわけではありません。

レジリエンスを実現するには、現場に4つのことが求められます。1つ目は、テクニカルな専門的知識・スキルです。それぞれの現場で業務に直接必要な知識・技術をしっかり教育、訓練することが必要です。2つ目は、心身の健康管理のスキルです。変動に立ち向かう前向きな意欲が湧き、あと一歩のところを踏み出すためには、現場の方に自分の健康を管理していただくことが必要です。3つ目は、コミュニケーションや気づき力などのノンテクニカルスキルです。航空業界でいうCRM (crew resource management) スキルが相当します。4つ目は、態度・マインドです。脅威を恐れずに立ち向かうための責任感・使命感の啓発が必要です。いろいろな産業では、過去に起こした事故を保存し、そこから先輩たちの苦労や社会に与えた被害などを学ぶ活動が多く行われていますが、安全態度の啓発として重要なことです。

以上、「人」についてみれば、社会技術システムの安定を維持するために、ヒューマンエラーをなくすということのみならず、変動に柔軟に対応する「現場力」も重視すべきことをご理解いただきたいと思います。





## Profile

やまうら かずほ  
山浦 一保

立命館大学スポーツ健康科学部准教授。専門は産業組織心理学。リーダーシップや、人間関係構築に関する心理学的研究を行っている。

## 「組織の中で人を活かし、人をつなぐ — パンドラの箱の物語」

信頼が崩壊しやすい時代にあって、希望や期待が持てるような組織や人づくりのために一体何が必要かということについてお話しします。

1つ目は、「麻の中の蓬（よもぎ）」ということです。“曲がりやすい蓬であっても、まっすぐ伸びる麻の中に生えればまっすぐに育つ”という意味ですが、言い換えると“希望や期待が持てる「骨太の目標」がある中で人が活動できる時、その人は力を生み出すことができる”ということです。リーダーが、そのベクトルを骨太く定めるために必要なことは、①何を強調・指摘・決断すべきか一貫したポリシーを持つ、②立ち位置をしなやかにし、いろいろな視点から物事を考え、幅広く情報収集する柔軟さ、③守りたい・誇りに思うといった組織に対する愛情、です。

2つ目は、「ドアを叩く人への信頼」ということを「目」をポイントにお話しします。私の好きな言葉に「ドアを叩く人があれば相手を信頼し、たとえ夜の遅い時間であってもその心に向かって自分の心を開く」という言葉があります。自分の見たモノを相手に心を

開いて伝えようとするれば、自身が、そして周りの方がどのような癖や目線を持っているかを知る必要があります。チームは様々なタイプの人の組み合わせで成り立っているわけですから、リーダーが希望や期待がもてるように目を向け、解釈することが大切です。

3つ目は、「ドアを叩く人への信頼」を「魂」をポイントにお話しします。組織や人が希望に満ちて、やりがいに満ちて、輝きを増すためにコミュニケーションをいかにとっていくかということが大切です

す。私たちがコミュニケーションをとるのは、皆さんの知っている情報を相手の方に、相手を知っている情報を皆さんの方に伝え合うことによって熱を等しくしていくためであり、開かれた窓をできるだけ大きくすることが安全を確保する、危険を予防するということにつながっていくわけです。

そして言葉があればもっとうまくいくということですが、非常に効果があるのが「褒める」ということです。ただし、褒めどころを褒めてやるという条件がつかます。どうやって上手くいったのか、その過程を見てあげる、努力を褒めてあげた方が継続的なパフォーマンスにつながるということが最近の研究でわかってきています。また、そもそもの関係性ができていないと褒めることが逆効果になるということもわかってきました。

以上の取り組みを行うことで、部下の方のモチベーションが上がり、そしてご自身も明るくなるのです。



### 参加された方からいただいたお声



現場力や安全の感度を高めるヒントを与えていただき感謝します。



今の職場の問題に合致したお話で参考になった。

興味のある内容で事例に即してわかりやすかった。



ほめることについて、自分の意識を変えるきっかけになった。



新しい切り口のテーマで新鮮だった。



最近参加した中でも大変有意義なセミナーであった。

# 助成先の活動紹介

平成 24 年度は 48 件の活動・研究に対し助成を行なっています。(うち 22 件は東日本大震災に関連する活動)

8月18日(土)・19日(日)、電気・ガス・水道・電話が通じないという災害時を想定したキャンプが地域(奈良県北葛城郡上牧町)の小中学生を対象に開催された。災害時における怪我人の救出や身の回りにある物で応急処置が出来ることを知るカードを使ったゲームのほか、実際に屋外で防災機器を使って体験したり、当財団助成先でもあるNPO法人検定協議会とコラボしてキッズ防災検定などが行われた。大雨により一時的に公民館内で実施されたプログラムもあったが、子どもたちが楽しみながら防災について学べる場となった。

## 「子どもサバイバルキャンプ(防災訓練)」

桜ヶ丘2丁目自治会 (0745-32-8706)

安全で安心できる住みよい環境の育成・維持を目的として会員相互の自主的な活動を行っている。



(写真は主催者提供)



(写真は主催者提供)



## 台風 12 号被災地応援事業

～マッサージと音楽でリフレッシュ～

つれもて和歌山 (090-5132-7268)

和歌山県内の視覚障害者や高齢者のボランティア参画や自立を促進する活動を行っている。



和歌山県東牟婁郡古座川町で7月14(土)・15日(日)、県内の盲学校の生徒・OBらから昨年の台風12号で被災された方々約120名へマッサージが行われた。会場は同団体メンバーによるギターやフルートの演奏に包まれリラックスできる場が提供された。

## 東日本大震災被災者のための 兵庫での受け入れ(一時滞在含む)事業

神戸定住外国人支援センター (078-612-2402)

定住外国人との共生社会の実現のため、人権擁護や福祉の充実などの諸事業を行っている。



(写真は主催者提供)

8/7(火)～8/13(月)の1週間、福島原発事故の放射能被害に直面し、屋外での活動に制限を強いられている小中学生約40名を神戸市内に招き、六甲山でキャンプを行った。自然の中で安心して思い切り身体を動かせる貴重な時間となった。

## 防災まちづくり

「災害に備えて～地域と企業の取組み～」防災発表会&  
「防災「地産地消」～よいもの・わかりやすいもの～」展  
震災から命を守る会 (073-472-5619)

地震による被害軽減のため、地震防災に関する事前対策活動を行っている。



「防災の日」に合わせ9月1日(土)・2日(日)、大災害に備え「防災まちづくり」が和歌山市内で開催された。自治会等での防災への取組み発表や企業が開発した防災用品等の展示に加え、消火体験もできるなど多くの方が意欲的に参加された。

## 子どものための水面安全 レスキューサポーター養成講習会

オーシャンゲート ジャパン (06-6212-6277)

海洋・湖川などにおける安全や緊急時に対応する救助法や救急法を広く普及する活動を行っている。



(写真は主催者提供)

白崎海洋公園(和歌山県)で、最新の応急手当等の講習会が定期的に開催されている。プールでの実践もあり、水面レスキューサポートとグループワークとしての連携を図りながら、必要な技術・サポート方法が習得できる場となっている。

## 第 48 回日本小児外科学会近畿地方会 市民公開講座 「子供を守ろう!家の中には危険がいっぱい」

近畿大学医学部奈良病院小児外科 (0743-77-0880)

子どもの死因第1位である不慮の事故に遭遇した際の対応法を大人に伝えることで子どもの救命率を上げる活動を行っている。



(写真は主催者提供)

8月26日(日)、大阪市内で乳幼児の不慮の事故をテーマに、乳幼児の一時救命の体験もできる公開講座が行われた。誤って食べ物以外のものを口にする誤嚥・誤飲に関する講演などでは、小さな子どもを連れた参加者が熱心に聞き入っていた。

## 見学会

日本レスキュー協会 (072-770-4900)

災害救助犬の育成及び派遣(国内外)による人命救助活動やセラピードッグの育成によるリハビリサポートや心のケア活動を行っている。



緊急時に十分な活動ができるよう災害救助犬の認知度向上を図る為、毎月第2日曜日に見学会が実施されている。屋外で模擬瓦礫等を利用した訓練内容の紹介と参加者も交えたデモンストラーション等が行われた。

現在助成を行っている団体の今後の活動予定をご紹介します。詳細につきましては、各団体へ直接お問い合わせください。

## 認定 NPO 法人 日本レスキュー協会

### 見学会

(TEL:072-770-4900 又は E-mail:info@japan-rescue.com)

**日程** 平成 24 年 11 月 4 日 (日)、12 月 9 日 (日)、  
平成 25 年 1 月 13 日 (日) 各日とも 10 時～12 時

**場所** 認定NPO法人日本レスキュー協会  
(兵庫県伊丹市下河原 2-2-13 ※最寄駅 JR 北伊丹駅徒歩 10 分)

**内容** 緊急時に十分な活動ができるよう災害救助犬の認知度向上を図るため、模擬瓦礫等を利用した災害救助犬の訓練の様態を公開します。当財団の助成金で育成されている災害救助犬の成長や訓練の過程もご紹介します。(定員 40 名、電話又はメールにて要事前申込み、参加費無料)

## ガリレオクラブ インターナショナル

### ありがとう・おかげさま・ おたがいさま ～作業所復興応援・支援市

(TEL:090-1718-0625 又は E-mail:info@galileoclub.org)

**日程** 平成 24 年 11 月 10 日 (土)・11 日 (日)

**場所** メリケンパーク  
(兵庫県神戸市中央区波止場町 ※最寄駅 JR・阪神元町駅徒歩 10 分)

**内容** 東日本大震災で被災された作業所の方を招待し、阪神淡路大震災で被災された作業所の方と一緒に『被災作業所応援市』を開催します。また、東日本の現状を聞くとともに、神戸の復興の話聞くことで、復興への未来を考える交流会も開催します。(交流会のみ定員 50 名、電話、メール、ホームページ応募にて要事前申込み、参加費 500 円)

## NPO 法人 オーシャンゲート ジャパン

### 子どものための 水面安全レスキュー サポーター養成

(FAX:06-6212-6277 又は E-mail:oceangate@fancy.ocn.ne.jp)

**日程** 平成 24 年 11 月 18 日 (日)、12 月 1 日 (土)  
平成 25 年 1 月 27 日 (日) 各日とも 10 時～17 時半

**場所** 白崎海洋公園  
(和歌山県日高郡由良町大引 960-1 ※最寄駅 JR 紀伊由良駅  
タクシー乗車 15 分。または、最寄駅より送迎相談可)

**内容** 乳児・小児、大人のダミー人形を用いて最新の応急手当や人工呼吸法を学べるだけでなく、プールや海洋でのレスキュー技術、サポート方法が習得できる講習会を開催します。(定員 12 名 (最少催行人数 3 名)、FAX 又はメールにて要事前申込み、参加費 4,200 円)

## 関西学院大学 災害復興制度 研究所

### 東日本大震災県外避難者 (西宮市在住) 交流イベント

(TEL:0798-54-6996)

**日程** 平成 24 年 10 月 28 日 (日)

**場所** 神戸市立フルーツフラワーパーク  
(兵庫県神戸市北区大沢町上大沢 2150 ※最寄駅 JR 三田駅  
タクシー 15 分)

**内容** 東日本大震災により西宮市に県外避難されてこられた方々の交流を行います。(参加費 1 家族 500 円、詳しくは TEL にてお問合せください)

## 桜ヶ丘 2 丁目 自治会

### 災害時避難訓練 (①全世帯避難訓練 ②要援護者避難訓練)

(TEL:0745-32-8706)

**日程** 平成 24 年 11 月 18 日 (日) 9 時～12 時

**場所** 上牧町桜ヶ丘 2 丁目全域 (420 戸)  
(奈良県北葛城郡上牧町桜ヶ丘 2 ※近鉄池部駅徒歩 15 分)

**内容** ①桜ヶ丘 2 丁目約 420 戸を対象に自治会委員により各戸人数安否確認と誘導による一時避難を行うほか、災害用資機材で訓練を実施します。②トランシーバーを駆使し、安否確認・情報伝達・救出活動・避難救助所への搬送や救護班によるレスキューシートの一元管理といった訓練を、今回は住民の方に分かり易くするため模式的に実施します。

## NPO 法人 検定協議会

### キッズ 防災検定



(FAX:078-393-5124)

**日程** 平成 24 年 12 月 1 日 (土)～平成 25 年 2 月 28 日 (木)

**内容** 阪神淡路大震災での経験・教訓を踏まえ、防災に関する知識を身につけることを目的とした検定を兵庫県下の小学校にて実施します。



# 主催セミナー等のお知らせ



平成 25 年度公募助成  
(活動・研究) 募集



## いのちを支える 各種活動・研究助成

## 東日本大震災 活動助成

心身のケア、防災、救命、事故防止など身近な「いのち」を支える活動・研究を応援します。

### 《テーマ》

事故、災害が起こった際の備えに関する活動・研究  
又は事故、災害が起こった後の心のケア等に関する活動・研究

**特別枠** 東日本大震災・平成 23 年台風 12 号に関する  
被災地・被災者支援活動

### 《助成金》

- ポイント① 助成金は活動前にお支払します
- ポイント② 活動経費全額の助成も可能です
- ポイント③ 助成対象となる活動に必要な人件費等にも使えます
- ポイント④ 対象団体に法人格は必要ありません

締切は **2012年11月30日(金) 必着** です

※募集要項・申請書はホームページからダウンロードしてください

JR 西日本財団

検索

## 第 2 回連続講座 「『いのち』を考える」



悲嘆やグリーフケアなど多様な観点から  
「いのち」に焦点を当てた連続講座を  
開講しています。



日程	講師
① 10月3日(水)	柳田 邦男 (作家、評論家)
② 10月10日(水)	鷺田 清一 (哲学者、大谷大学教授、前大阪大学総長)
③ 10月17日(水)	土師 守 (「淳」著者)
④ 10月24日(水)	高 史明 (作家、評論家)
⑤ 10月31日(水)	上田 紀行 (東京工業大学リベラルアーツセンター教授、「生きる意味」著者)

日程	講師
⑥ 11月7日(水)	青木 新門 (作家、詩人)
⑦ 11月14日(水)	梶田 勲一 (兵庫教育大学名誉教授(前学長))
⑧ 11月21日(水)	村上 典子 (神戸赤十字病院心療内科部長)
⑨ 11月28日(水)	日野原 重明 (聖路加国際病院理事長)
⑩ 12月5日(水)	高木 慶子 (上智大学特任教授、上智大学グリーフケア研究所所長)

※当講座の募集受付は終了しております。お申込みありがとうございました。

## 救急フェア 「身につけよう 救命処置」



今年度の救急フェアもラストスパートです!!



- ◎ AEDの使用や心肺蘇生法の体験
- ◎ 駅ホーム非常ボタンの操作体験
- ◎ イコちゃんとの記念撮影コーナー (JRミニ制服も着れます) 等を行います

2012年 10月 27日(土) 10:30 ~ 13:30 大阪駅(時空の広場)

助成先の NPO 法人大阪ライフサポート協会により PUSH 講習会も開催  
します。(要事前予約(先着 30 名様)。10月 26日(金) 17 時まで電話  
・FAX・メールのいずれかで当財団までお申込みください。)

2012年 11月 18日(日) 10:00 ~ 12:30 尼崎駅(北側駅前広場)

2011 年度に活動を行った助成先団  
体(2010 年度募集)に活動の成果  
を報告していただきます。

## 平成 23 年度 活動団体による報告会



日 時: 2012年 10月 30日(火) 15:00 ~ 18:00  
場 所: ホテルグランヴィア大阪 20 階(鳳凰の間)

## 編集後記



いよいよ公募助成の募集が開始されました!!  
さて今回はどのような活動や研究が申請されてくるのでしょうか。  
地域住民が一丸となって行う防災訓練や大きな災害を受けた方に対する直接的なケアなど  
アイデア溢れる皆様の取り組みを楽しみにお待ちしております。  
(編集者: 小山)